

「知恵と工夫の公民館活動」

～「梅まつり」等のイベントを通して～

おとがなだい
大野城市 乙金台公民館（自治公民館） 館長 安田 清隆



① 乙金台区／乙金台公民館の概要

- ◆大野城市の東地区コミュニティを構成する7区のうちの一つ
昭和 42-43 年頃から住宅地として開発 ⇒ 昭和 58 年に乙金台区が設立
- ◆平成 25 年 12 月末現在で、628 世帯、人口 1,623 人、隣組数 29
住宅地につき商店や企業が少なく「企業区費」などの収入が見込めない
- ◆公民館・・・昭和 62 年 3 月に新築（鉄筋コンクリート 2 階建て・延床面積 369 ㎡、平成 22 年度に大規模改修）
- ◆「公設民営」型の自治公民館・・・土地・建物は市の所有、運営管理は区（＝指定管理者）に委託されている

② 「梅まつり」について

【経緯】

- ◆新興住宅地にできた区 ⇒ 住民の親睦を深め、区としての結束・一体感を
⇒ 何か大きな事業ができないか？
- ◆しかし、予算が潤沢でない中で、何が出来るか？
⇒ 太宰府天満宮から、紅白一本ずつの梅の木を譲り受け、公民館の周りに
植樹・・・年々本数を増やした（ピーク時 60 本 ⇒ 平成 22 年度の大規模
改修工事により、現在は 41 本に）
- ⇒ 平成 2 年 2 月に 第 1 回「梅まつり」開催
以降、毎年 2 月下旬に開催（今年は 2 月 23 日、24 回目になる）
梅酒や梅粥などのふるまい、演芸（舞踊・カラオケ）等を行ってきた
- ⇒ 年々内容がマンネリ化・・・参加者は 30 名ほどにとどまり、ほとんど関
係者（区の役員や演芸サークル）だけとなってしまった
- ⇒ 8 年ほど前から新たな試みを・・・合言葉は「子どもたちを呼ぼう！」

【現在の「梅まつり」】

- ◆ 事前準備
区の役員の協力のもと、
・小学 5 年生「田植え・稲刈りの手伝い」
⇒ お礼に 15kg の米をいただく



- ・ 6月上旬 ……中学1年生「梅の実ちぎり」（中学校地域貢献活動の一環、100kg 収穫）⇒ 梅酒・梅粥・梅干・梅飴・ジャム（+どんど焼きの七草粥）の材料に

◆まつり当日（2月）



- ・ オープニングは「餅まき」から（多くの人に来るよう）餅の袋に赤テープ = 最後に景品が（最後まで人が残るよう）
- ・ その後 ……館内で「梅酒（新酒）・梅粥・梅飴等のふるまい」「舞踊・カラオケ等の各サークルによる演芸」など
- ・ 館外で梅の花を観たり、館内で食事や演芸を楽しみつつ、自由な雰囲気では進む（約2時間）
- ・ 1杯100円の「ラーメン」もあり（200杯が完食）

◆結果と効果

- ・ 子どもの数が増え、親たちも一緒に来るようになった
⇒ 100名以上の大幅増を達成（開会時の来場者は約150~200人）
- ・ 予算も9万円程度に抑えられている

③ その他、各種事業を行う上での工夫・アイデア

◆どんど焼き（1月・成人の前日）⇒ 新成人の祝賀を兼ねる



- ・ 新成人に招待状 ……御神酒を飲んだ後に「火入れ」
- ・ 記念品（図書券）と一緒に、3人分の「赤飯」を渡す（家に帰って、親子でお祝いしてもらうため）
- ・ 新成人（代理で親の参加も可）の参加者は例年約12~13人
その中の1~2人でも、一生の思い出としてくれて、その子たちが将来の乙金台区を担う人材になってくれれば…

◆七夕かざり（7月） 普通は公民館内（建物内）に飾ることが多いが…

- ・ 大きな笹を用意して、公民館敷地の入口（館外）に飾っている（視察研修で行った「浦添市 内間公民館」を参考に）
- ・ 1年目は短冊の半数が風で飛び、2年目は笹が枯れ折れてしまった…
⇒ 3回目の昨年、初めて成功！（試行錯誤の末、セロテープ等で補強）
- ・ 近くを通るコミュニティバスの乗客からも見えたそうで、「きれいでした」と好評をいただいた
- ・ 今は子どもたち（育成部）中心だが、今後はシニアクラブ等の他団体も加えて、区のみinnで作りあげる七夕かざりにしたい

◆敬老会（9月・敬老の日） 食事は「仕出し弁当」が多いが…

- ・ 弁当は最初にちょっとだけ箸をつけて、そのまま持ち帰る人が多かった
⇒ それなら、代わりにラーメンを食べてもらったらどうか！
高齢になると、外に食べに行く機会も減るだろう…
⇒ 最初は物議を醸した（敬老会でラーメン!?) が …… 大成功だった!

- ・弁当には「箸を付けないまま持ち帰る」人が増えた ⇒ これを見越して、業者には先に「長もちする弁当を作ってください」とお願いしている

◆「ひなんぶくろ」の作製



- ・65歳以上の区民を対象に配布（区の福祉部員が手縫い）、中に各人の個人情報や服用薬などが記されたカードを入れる
- ・決め事「普段は冷蔵庫に入れておく」…災害時などには首から提げて（両手が使えるように）避難する
 - ※市の防災訓練でも、みんな持って避難した
- ・救助に来た人にもわかるよう、冷蔵庫に「この中にあります」シール
- ・対象者が外出先で倒れた場合も想定し、中のカードは（本人同意の上で）コピーをとり、現在80名分を公民館で厳重に保管している

④ 事業実施の視点（全体的なポリシー・心がけていること）

◆「開かれた公民館に」

「みんなに気軽に公民館に寄ってもらえる」「子どもたちが放課後に遊びに来たり、勉強しに来たりする」ような公民館をめざしている

◆「子どもたちのため、次の世代のために」

隣組長会などでは…「『区のため・地域のために』だけにとどまらず、将来のことを考えて『子どもたちのために』協力をお願いします」

⑤ 事業の成果

◆ 区や公民館行事への参加者が大幅に増え、また行事以外の時でも来館者が増えた

・子どもたちが学校帰りに立ち寄り、通信簿を見せに来てくれたりしたときに、「開かれた公民館」の実感がわく

◆ 区民からの理解・協力が十分に得られていると感じる

・全国的に「人手不足」が叫ばれているが、乙金台区（公民館）ではあまり人手不足を感じない



⑥ 今後の課題

◆ 世代交代・新陳代謝の必要性

・現在の役員より一世代下の人にバトンタッチしたいが…今は「65歳まで働かないといけない」時代

◆ 女性（お母さん）は協力的だが、男性（お父さん）が遠慮がち

・「お父さんを集めるための仕掛け」づくりが必要

◆ スポーツ少年団の指導やお世話に熱心な親も多く、「スポーツ少年団と区・公民館が連携して何かできないだろうか？」と模索中です

問合せ：乙金台公民館 [大野城市乙金台2丁目17-3、☎092(503)9793]